

「命がけの善意に生きる」

ローマ 15:7~25

ミハエル・エンディというドイツの絵本作家が描いた『トランキラ・トランペルトロイ』という絵本があります。トランキラは亀で、その国には王様がいて王様はライオンで王様が結婚式をすることになりました。森中の動物を集めて結婚式をします。王の宮殿に来てください。そのような招待状がトランキラの元に届きました。トランキラは招待状を見てこんな僕のために招待状を送ってくれたんだと思ひ自分は亀なので予定の日よりもだいぶ先だったがその日のうちに王様の宮殿を目指した。トランキラが歩いているとバッタがきまして「おいトランキラ どこに行くんだ？」トランキラは答えます「王様から招待状が届いて王宮に行くんだ」バッタは「宮殿はお前が進んでいる方と反対側だよ」と答えます。しかし、トランキラは自分を信じてバッタが教えてくれたが真っ直ぐに進んで行きました。

すると、池のほとりにトカゲがいました。トカゲが言いました「トランキラどこに行くんだい」トランキラは答えます「王様から招待状をもらったから王宮に行くんだ」トカゲが「王様は隣の国の虎王国で戦争が起こって、そこに陣出したから結婚式は延期になったよ」と教えてくれました。しかし、トランキラは自分のところにはそんな話は来ない。トカゲの情報を信じずに王様の宮殿を目指しました。

今度はカラスが「王様は隣の国との戦いで死んだんだよ、だから結婚式はなくなったよ」と教えてくれました。トランキラはそんなはずはない自分のところには招待状が届いているのだから必ず結婚式はあるんだと信じて王宮に向かって行きました。宮殿に着くと宮殿の中はみんなが大忙しで動いていた。トランキラはサルに聞きました「これから何が始まるの？」サルは嬉しそうに答えます「これから王様の結婚式があるんだよ。よく来たね。」まだ、誰も来ていませんでした。トランキラが一番前の席の王様の隣に座りその後未長く幸せに過ごしました。

この作者は何が伝えたかったかと言うと当時ドイツはたくさんの戦いがあり、たくさんのウソの情報が流れていたのです。多くの国民はウソの情報に騙されて自らが生きる道を失ったり、失望したり、落胆したのです。情報は本当かどうかがとても大切です。私たちの心にもたくさんの情報が入ってくるが本当に聞くべき情報は何かを見極める必要があるのです。

- ① 善意に溢れている
- ② 全ての知恵に満たされている
- ③ 互いに戒めることができる

善意とは？善意がなにか分かりますか？善意があるから知恵に満たされる、善意があるから互いに訓戒し合える、善意がなにか分かっていなければ知恵の選び方を間違えます。そうすると互いに訓戒し合うのではなく、裁き合うのです。

善意とは、その人を本質に戻す行動です。私たちがする善意はその人が本当の姿に戻っていくための行動を共に行うことが善意です。つまり、自分が変わるということです。

イエス・キリストがそうでした。イエス・キリストは本当の姿の手本を見せるために来ました。そして最後に善意を表しました、それが十字架です。十字架はその人の重荷を背負って、その人が本当の自分に戻れるように罪の足かせを取り去り、病を負い、その人の問題を移したのです。問題を繰り返してしまふことはありませんか？パウロが大胆に書いたと言ったのは「思い起こす為」です。私たちクリスチャンがなぜ変われないかと言うと悔い改めないからです。自分の考え方のプロセスが間違っているとは思ひにくい。相手から指摘されても自分は悪くないと思ひています。様々な争ひは自分は悪くないから始まっているのです。そして自分は悪くないと思ひている人は被害者意識なので変わることができません。

しかし、イエス・キリストは最大の被害者なのに変わろう

としたのです。善意とは、自分が変わりその人を本当の姿に変える行為なのです。

祭司の務めを果たすために仕え人としてきた情熱的に生きたパウロ

仕える人とはギリシャ語で「レイトゥルゴス」意味は「公の仕事」日本語に訳すと「公務員」です。パウロは使徒だったのででしょうか？当時パウロはイエス・キリストを告白する人を捕らえては牢屋に入れていた。そして、火あぶりの刑まで命令して行なっていたのです。弟子達からするとパウロは使徒ではなかったのです。今まで迫害してきたパウロを信頼することは難しかったのです。しかし、パウロは祭司として一番下で仕えたのです。17節にあるのはパウロの誇りです。パウロはことばっという行いでした。

『初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。』(ヨハネ 1:1)

パウロは神の同労者としてパウロは働きました。神様は素晴らしいものを与えて下さりますが、それを行う情熱が私達には必要です。クリスチャンは賛美のささげ物、祈りのささげ物、異邦人を救いに導くことが救いの生贖である犠牲のささげ物は2000年前にイエス・キリストの十字架に架かっ時に「完了した」と言われて犠牲は必要なくなったのです。

言葉を通して誰かに伝えて、その言葉に神が働いて奇跡が起こり、その人が作り変えられて神様の元に帰ってくるこのプロセスが神に栄光を捧げる感謝の生贖なのです。

他人の土地の上に建てない

私たちはキリストの土台に使徒と預言者を通して建てられたということで、新たな地に土台を移設するのが仕事です。パウロは自分に与えられたイエス・キリストの土台を新たなところへ福音のために建てていったのです。

『初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。』(ヨハネ 1:1)

パウロは、救いは口で告白して自らと他者を救うことが分かったのです。そこでパウロは絶えず言葉を持って行いを通してしるしと不思議を行いました。

miraculous signs and wonder しるしと不思議をなす力 私たちが言葉と行動にあらわした時、神様が共に働き、事を成し遂げてくださいます。今は「万民祭司」です。私たちすべてが「祭司」で私たちが「ささげるのです」そして、最後に救いが訪れるのです。愛により一体にし、完成するのです。

まとめ

僕の敵は逆風ではない、私の人生にはたくさんの逆風があったが僕の敵は逆風ではなく、周りの誰かではなく、只々自分を臆する弱さが自分の敵だったその弱さを認めるときその弱さは僕の鎧となるといくことを君は私の後ろで囁いた。(詩：僕の鎧)

命がけの善意で生きていますか？その場しのぎで生きていませんか？過去の記憶を間違えて記憶していませんか？今日まで歩んできたこの道、あなたは人の責任にしてませんか？過去を誰かのせいにはせずあなたが変われば変わるんです。ローマ書はあなたに変われと言っています。変わる力を与え、奇跡を起こすと神様は言ってくれています。どんな事が起きても諦めない！なぜかという神様が生きて働いているからです。

将来と希望を与える計画です。そのことを信じていきましょう。

(要約者：泉水 浩)

(2020年1月19日)